

教師教育・設置形態別の課題

国立一般大学での将来像の模索

佐藤 学

さとう・まなぶ  
東京大学・教育学部

国立大学の教育学部は、発足以来の危機を迎えている。多くの大学で学部の縮小と再編が議論され、いくつかの大学では、学部を廃止し他学部統合する計画も検討されている。この危機は、教員就職率の低下を基盤としているが、直接的には、一般教育（教養部）の改組にともなう学部再編に起因している。しかも、その危機は、教育学部内部の歴史的对立である「学芸学部（学問中心）」対「教員養成学部（専門家教育）」の論争を再発させ、「ゼロ免課程」と

よばれる新課程を拡大する改革を導いている。

この危機への対応は、教育学部を新学部再編する方向、教育学部を新設の学部統合し小学校教員養成課程のみを一部門として残す方向、教育学部として存続しながらも中学校教員養成課程を新課程に再編する方向、教員養成の機能を縮小し新課程の拡大をはかる方向など一様ではないが、いずれも全学の再編計画にスタッフと定員を供出し、教師教育の縮小を迫られている点では共通している。

しかし、教育学部の存在価値は、決して薄らいではない。そのことは、これだけ教員就職率が悪化した状況においても、教育学部の受験倍率が二〜三倍の水準を維持していることが端的に示している。

現代社会は、幅広い教育学的教養を要請しており、教育という公共的領域の研究と教育を発展させることは、国立大学の教育学部の中心的使命の一つである。教師教育に関しても、長期的な教員の需要と教員の適切な年齢構成を考慮すれば、早急な学部の縮小や再編は慎むべきだろう。特に、小学校教員の養成に教師教育を限定する傾向は、中学

校教師の専門性の低下をまねく危険をはらんでいる。

教育学部における急務は、教師教育の意義を再確認しつつ学部改革を主体的に準備する将来構想である。その方向は、名実通りの「専門家学部（プロフェッショナル・スクール）」として学部を再構築する方途を模索することにあると言えよう。すでに、大半の教育学部が現職教育を担う修士課程を設置しており、「専門家学部」への改革をいっそう推進する条件は拡大している。

現在の教員就職率だけを見ると、教育学部の将来は決して明るいものではないが、大学院における現職教育の可能性を考慮するならば、潜在的には、膨大な進学希望者が存在することに留意する必要があるだろう。

大学院における教師教育と現職教育の潜在的需要は、社会人入学枠を設置し夜間制を導入するならば飛躍的に現実化するだろう。都道府県が定める大学院進学枠内だけでは、専修免許状の取得者は、いつまでたっても数%にとどまるほかはない。希望し合格すれば教師の誰もが勤めながら大学院に通える道を、国立大学の教育系大学院は夜間制の導入によって準備すべきである。

教育学部に社会人枠を設置し昼夜間制を導入する改革は、各都道府県の教員養成期間との連携によって、地域の教師

教育のセンターとしての役割もはたすだろう。たとえば、

「大学における教員養成」とは言うものの、現在も新規採用者の四割は、短大卒か指定教員養成機関卒（多くは幼稚園教師）で占められている。これら二種免許状を一種免許状へと更新する要望は大きい。この要望に応える課程を教育学部に社会人枠として設置する道も追求されてよい。同様の可能性は、養護教員、図書館司書、学芸員、スクールカウンセラー、看護学校教員などの領域においても認められるだろう。

国立大学教育学部は、各都道府県における教師教育（現職教育）と教育関連の教育のセンター（地域機構の中核）として脱皮すべき段階にきているのではないだろうか。そのためには、これまでの限定的な教育学部像から脱却して、広い意味での「専門家学部（大学院）」として、教師教育を中軸としつつ多様な機能を拡大する方向が模索されるべきであろう。

「専門家学部（大学院）」への脱皮における中心的な課題は、スタッフとカリキュラムの再編成である。「専門家学部（大学院）」としての教育学部（大学院）は、これまでの「教科専門」を再編した教養教育を基礎としつつ、一方は、「教職専門」と「教科教育」で構成される教師教育のコー

スト、もう一方は、教育関連の多様な人材を養成する「新課程」のコースで編成する方法が、教師教育の専門職性を発展させながら、同時に、教育学部の教育の総合化と多様化をはかる方途として考案されてよいだろう。

上記のように、教育学部の縮小・再編の改革は、教育学部を解体して新学部を創設したり他の学部と統合する方向で終結させるのか、あるいは、教育学部を教師教育を軸とし大学院における現職教育の拡充を見通して「専門家学部（大学院）」への発展を推進する方向で終結するののかという、地域の教師教育の将来を決定する岐路に立っている。見識のある慎重な改革を期待したい。

